

目 次

I	平成30年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	10
2	調査問題一覧表【設問別】	11
3	特徴的な問題と解説	12
III	調査結果概況【市全体】	16
IV	成果・課題と解決の糸口	17

I 平成30年度 さいたま市学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 各学校は、自校の教育の成果と課題について、市全体の状況を基に、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育課程の編成に生かすとともに、「さいたま市小・中一貫教育」を踏まえ、教育指導の工夫改善に取り組む。
- (2) 児童生徒は、自らの学力面の伸びや課題及び生活面の成長や課題を継続的に把握し、理解することで、よりよい学習習慣や生活習慣の確立のために生かす。
- (3) さいたま市教育委員会（以下、「教育委員会」という。）は、児童生徒の学習や生活状況について、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。さらに、そのような取組を通じて、学校における教育指導の継続的な工夫改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- (1) さいたま市立小・中・特別支援学校の原則として各学年の全児童生徒を対象とする。なお、これ以降、小学校及び特別支援学校小学部を「小学校」、中学校及び特別支援学校中学部を「中学校」と示す。
- (2) 「学力に関する調査」は小学校第3学年から中学校第3学年まで、「生活習慣等に関する調査」は全学年で実施する。
- (3) 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒
- (4) 日本語指導が必要な児童生徒については、原則として、他の児童生徒と同様の授業を受けている場合、調査の対象とする。ただし、取出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日等

- (1) 調査実施日は、平成31年1月9日(水)とする。
- (2) 小学校第1、2学年の「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて調査用紙の家庭への配付日を決定し、適切な回収期間を設定して実施する。
- (3) 小学校第3～6学年及び中学校における「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて別日に行うことを可能とする。ただし、学校または学年で実施日を統一して実施する。

4 調査の内容

- (1) 実施教科・時間・順序については、表1、2のとおりとする。

＜表1＞ 数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時		
		国語	算数	社会	理科		
小学校	第1学年						30
	第2学年						
	第3学年	20	20				
	第4学年	20	20				
	第5学年	40	40	40	40		
	第6学年	40	40	40	40		

<表 2>

数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序 ※					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	30
中学校	第1学年	国語	数学	理科	グローバル・スタディ (英語)	社会	
		50	50	50	50	50	
	第2学年	国語	数学	グローバル・スタディ (英語)	社会	理科	
		50	50	50	50	50	
	第3学年	国語	数学	社会	理科	英語	
		50	50	50	50	50	

※ 第1、第2学年の「グローバル・スタディ」(英語)及び第3学年の英語の調査は、リスニングテストを含むため、学年により実施順序を変えることとする。なお、網掛けは中学校長会主催の「さいたま市学力検査」を示す。

(2) 調査事項

ア 「学力に関する調査」

(ア) 小学校第3学年から中学校第2学年までの出題範囲は、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムに示された年間指導計画例を基本として、当該学年の11月までの指導事項を原則とする。

(イ) 出題の内容は、これまでの「さいたま市学習状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の課題に関わる内容を含め、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 当該学年及び前学年までの知識・技能等を中心とした出題（基礎問題）
- ② 当該学年及び前学年までの知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する出題（活用問題）
- ③ 課題解決に向けて思考し、判断する力、表現する力等に関わる内容の出題（チャレンジ問題）

(ウ) 出題の形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(エ) 中学校第3学年については、「平成30年度 さいたま市学力検査実施要項」及び「平成30年度 さいたま市学力検査問題作成要領」に基づく。

イ 「生活習慣等に関する調査」

(ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について、調査する。ただし、個人の思想や信条等に踏み込んだ質問項目は設定しない。

(イ) 調査に要する時間は表1、2に示した時間を原則とするが、各学校・各学年の状況に応じて適切な時間を充てるものとする。

(3) 「さいたま市小・中一貫教育」に基づき、各教科において指導事項の定着状況を把握するために、複数学年で同一あるいは類似の問題を出題している。「グローバル・スタディ」については、以下の表のとおりである。

調査問題の概要	出題した学年と問題番号	備考
Where do you want to go? に対する適切な応答を選択する。	中1 1 (6)	小学校「グローバル・スタディ」で扱った表現
対話の流れに合った適切な英文を選択する。	中1 11 (1) 中2 10 (1)	中1、中2で類似問題を出題
与えられた語や語句を適切に並べ替える。	中1 12 (2) 中2 11 (1)	中1、中2で類似問題を出題

Ⅱ 調査結果と

特徴的な問題の解説

「グローバル・スタディ」（英語）の調査問題について、中学校第１、２学年における以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点から、小学校の内容も含め、日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の正答率を示しています。

3 特徴的な問題と解説

平成30年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 中学校第1学年
1 調査問題【出題の趣旨】

① ② ③ ④ 聞くこと	①は、短い英語の問い掛けに対し、適切な応答を選択する問題である。(1)は平成27年度より出題している問題であり、課題がみられているため出題した。(6)は小学校の「グローバル・スタディ」で学習した内容からの出題である。小・中一貫教育を生かした学びの継続性について検証するために出題した。 ②は、短い英文や会話を聞き、その内容に合う絵を選択する問題である。(2)は会話の内容をとらえ、whereの疑問文に対する答え方として前置詞byを使って答えることができるかを把握するために出題した。 ③は、スピーチを聞いて内容の要点を理解できるかどうかをみる問題である。(2)では聞き取る際に間違いが多いteenとtyの違いを区別できるかどうかを把握するために出題した。 ④は、会話を聞いて内容の要点を理解し、その内容に合っているメモを選択する問題である。必要な情報を正確に聞き取る能力を把握するために出題した。
⑤ ⑥ ⑦ 読むこと	⑤は、対話文を読んで要点を理解し、その内容に合っている時間割表を選択する問題である。必要な情報を正確に読み取り、それらを論理的に組み合わせられるかどうかを把握するために出題した。 ⑥は、3人による対話文を読んで、目的地までの移動手段やトムの日曜日の過ごし方等に関する情報を、正確に読み取ることができるかどうかを把握するために出題した。(2)の類似問題は、平成29年度の正答率が64.6%と「読むこと」の問題の中で最も低く、無解答率は3.0%と「読むこと」の他の問題と比較すると高い。読んで得た情報を活用することを苦手としている生徒が多いことが分かる。今年度も継続してその状況を把握するために出題した。 ⑦は、アラスカ州での生活が書かれた英文での手紙を読んで、その概要や要点を理解し、本文の内容に合うように、質問に正確に答えることができるかどうかを把握するために出題した。なお、疑問詞で始まる疑問文に応答する問題では、「読むこと」の問題として、読んで理解したことを平易に解答できるよう、2語での解答する形にした。
⑧ ⑨ ⑩ 書くこと	⑧は、時間を尋ねる英文を書く問題である。平成29年度市調査【中1】の類似問題では無解答率が13.0%と最も高かった。対話文の内容を読み取り、場面や状況に応じた表現を書くことができるかを把握するために出題をした。 ⑨は、絵が表わしている場面から、必要な情報をとらえて判断し、場面に応じた表現を書くことができるかを把握するために出題をした。平成29年度市調査【中1】の類似問題では課題がみられたため、継続して類似問題を出題した。 ⑩は、さいたま市出身の有名人を、与えられた条件のもと4文で書く問題である。「グローバル・スタディ」中学校教師用指導資料第3版p.96-101の内容に関連させ、与えられた情報を正確につかみ取り、英文で表現できるかどうかを把握するために出題した。授業での取組が定着しているかを検証することをねらいとしている。
⑪ ⑫ 言語材料(文法事項等)	⑪は、対話を読み、その状況や場面に合った適切な英文を選択する問題である。対話の流れを正確に読み取る力と、文構造や語法、文法に関する知識を身に付けているかどうかを把握するために出題した。(1)は授業でよく使われている曜日に関する問答で、経年での定着状況を把握するために、中学校第2学年においても類似問題を出題した。 ⑫は、日本文に合うように、与えられた語や語句を適切に並び替える問題である。正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けているかどうかを把握するために出題した。(1)と(2)のような「疑問詞＋名詞」の形をとる疑問文については、例年課題がみられるため、(1)については27年度より4年連続の出題となる。また(2)に関しては、経年での定着状況を把握するために、中学校第2学年においても類似問題を出題した。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		基礎問題	活用問題	心・意欲・態度	コミュニケーションへの関	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・	選択式・短記	記述式・短記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1(1)	問いかけの英文What is the date today?の内容を理解し、その応答として適切なものを選択することができる。	○					○		選	54.4	0.3	H28市【中1】 H29市【中1】	52.0 47.7			
1(2)	問いかけの英文How many brothers do you have?の内容を理解し、その応答として適切なものを選択することができる。	○					○		選	84.9	0.2	H29市【中1】	91.4			
1(3)	問いかけの英文What time is it?の内容を理解し、その応答として適切なものを選択することができる。	○					○		選	86.4	0.2					
1(4)	問いかけの英文 Can you play shogi?の内容を理解し、その応答として適切なものを選択することができる。	○					○		選	83.3	0.2					
1(5)	教科書と同一の問いかけの英文What do you usually do on Sunday?の内容を理解し、その応答として適切なものを選択することができる。	○					○		選	89.3	0.2					
1(6)	問いかけの英文Where do you want to go?の内容を理解し、その応答として適切なものを選択することができる。	○					○		選	74.3	0.2	H29市【中1】	80.0			
2(1)	会話を聞いて、絵の内容に合う家族の言い方を理解し、その数を選択することができる。	○					○		選	78.6	0.2					
2(2)	会話を聞いて、疑問詞whereで始まる疑問文とその応答や前置詞byを理解し、絵の内容に合っている適切な英文を選択することができる。	○					○		選	47.1	0.2					
3(1)	英語のスピーチを聞いて内容の要点を理解し、タロウの学校での活動について選択することができる。	○					○		選	68.8	0.2					
3(2)	英語のスピーチを聞いて、内容の要点を理解するとともに、混同しがちであるthirteen , thirtyの音の違いを正しく選択することができる。	○					○		選	61.0	0.7					
4	英語の会話を聞いて内容の要点を理解しナオミとタカンに関する適切なメモを選択することができる。		○				○		選	57.8	0.3	H29市【中1】	90.2			
5	対話文を読んで、要点を理解し、対話の内容に合う適切な時間割表を選択することができる。	○					○		選	54.0	0.5	H29市【中1】	75.0			
6(1)	対話文を読んで、要点を理解し、浦和に行く手段を表す適切な日本語を選択することができる。	○					○		選	71.2	0.8					
6(2)	対話文を読んで、要点を理解し、トムの日曜日の過ごし方について日本語で書くことができる。		○				○		短	73.5	6.0	H29市【中1】	64.6			
7(1)	まとまりのある英文を読んで、疑問詞whatで始まる疑問文に対する応答を適切な英語2語で書くことができる。		○				○		記	40.3	20.8	H29市【中1】	47.3			
7(2)	まとまりのある英文を読んで、概要や要点を理解し、本文の内容に合っている適切な日本語を選択することができる。		○				○		選	50.4	2.3	H29市【中1】	72.1			
8	絵や対話文から場面を読み取り、時間について尋ねる文を、適切な英語4語で書くことができる。		○			○			記	58.6	10.4	H29市【中1】	56.7			
9	絵の場面を読み取り、掲示物の意味を表している英文を、適切な英語2語で書くことができる。		○			○			記	45.1	17.8	H28市【中1】 H29市【中1】	66.2 55.1			
10	さいたま市出身の有名人の紹介を、条件に従って、適切な英語4文で書くことができる。		○			○			記	41.3	5.5	H29市【中1】	67.7			
11(1)	対話の流れを読み取り、曜日を尋ねる際に使う適切な英文を選択することができる。	○						○	選	75.8	0.8	H28市【中1】 H29市【中1】	67.7 70.9	中2	70.4	
11(2)	対話の流れを読み取り、会話の対象となっている少年が、友達であるか尋ねる際に使う適切な英文を選択することができる。	○						○	選	82.4	0.8					
11(3)	対話の場面を読み取り、練習をする場所を尋ねる際に使う適切な英文を選択することができる。	○						○	選	71.9	1.1					
12(1)	日本語の意味を読み取り、「How many + 名詞～」の語順になるように、与えられた語を適切に並べることができる。	○						○	選	68.7	0.8	H28市【中1】 H29市【中1】	68.6 72.3			
12(2)	日本語の意味を読み取り、「What + 名詞～」の語順になるように、与えられた語を適切に並べることができる。	○						○	選	55.3	0.9	H28市【中1】	52.5	中2	42.8	
12(3)	日本語の意味を読み取り、「～a picture of my family.」の語順になるように、与えられた語を適切に並べることができる。	○						○	選	54.7	1.0					

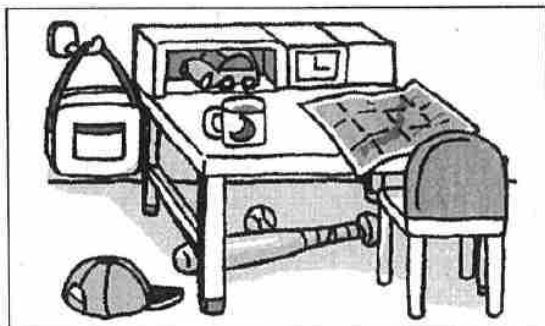
※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。
 調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 「聞くこと」

【特徴的な問題】

- ② これから放送する(1)と(2)の絵についての英文を聞き、絵の内容に合う最も適切な文や対話を、続いて放送するア～エの中からそれぞれ1つ選び、その記号を書きなさい。英文は2回放送します。



- ③ Taro(タロウ)がスピーチをします。そのスピーチを聞いて、次の問いに答えなさい。スピーチは2回放送します。次の問いに答えなさい。

(2) タロウは本を何冊持っていますか。その数字をア～エの中から1つ選び、その記号を書きなさい。

ア 12 イ 13 ウ 20 エ 30

出題の趣旨

②は、適切な前置詞を用いて質問に答えることができるかどうかを問う問題である。by を用いて位置をたずねる出題はこれまでなかったことから、生徒の理解度を把握する材料としたい。(2)は話された会話の内容をとらえ、where の疑問文に対しての答え方として前置詞 by 「～のそばに」を使って答えることができるかを把握するために出題した。

③はスピーチを聞いて、その内容に関する質問に答える問題である。新学習指導要領では「はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。」とある。問題のスピーチの中で類似した言い回しや、聞き間違いの多い数字(thirteen, thirty)など音声の中から必要な情報を的確に収集できる能力が身に付いているかどうかを把握するために出題した。

指導のポイント

1 視覚的な教材を用いての前置詞の定着

in, on, under, by, near などの前置詞は、実際に教室の物や生徒自身の持ち物を使い、実際の言語の使用場面を意識した視覚的な導入が、理解につながりやすい。「Where is ...?」の疑問文とともに、実際にあるものならではの生徒の関心を引き出す。また、on＝単なる「上」でなく、「接触している」というイメージ等、前置詞の細かな意味についても理解させたい。

(1) 導入部分では授業の前に教室の壁や天井にステッカーなどを貼っておき、前置詞は何を用いるのか生徒に考えさせたい。3択問題でクイズ形式にしてもよい。

(2) 定着の場面では、実際に教室にあるものを見ながら「弾丸 Question and Answer」を行う。ペアになり「Where is ...?」「It's ...」のやりとりを1分間交代でやり取りを行う。

2 聞くべき情報をフォーカスさせた活動

まとまりのある文章を理解するために、全体の内容を聞かせた後で、何が聞き取れたか生徒に尋ねる。できるだけ多くの生徒とインタラクションをしながら解答を確認する。この後、時間や場所、数などポイントとなる質問を提示し、注意深く聞き取らせる。また、聞き取る際の簡単なメモの取り方についても指導するといった取組も大切である。

中学校第1学年 「読むこと」

【特徴的な問題】

- ⑥ 次の Yuki (ユキ)、Tom (トム)、Takeshi (タケシ) の対話文を読んで、下の問いに答えなさい。
(1) ユキとトムとタケシは、どのように浦和(Urawa)に行きますか。適切なものを次のア～エの中から1つ選び、記号を書きなさい。
ア バス イ 自転車 ウ 電車 エ 歩く
- ⑦ 次の英文は、Ken (ケン) が日本の友達 Natsumi (ナツミ) にあてた手紙です。手紙を読んで、次の問いに答えなさい。
(1) 次の英語の質問に対する答えを、英語2語で答えなさい。
When can you see baby moose?

出題の趣旨

3題とも新学習指導要領の「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの中から必要な情報を読み取ることができるようにする。」に関連させて出題した。

⑥は、対話文を読んで、情報を正確に読み取ることができるかどうかを把握するために出題した。今回は、対話を3人によるものにする事で、より多角的な視点で組み立てられる対話を正しく理解できるかがポイントとなる。

(2)は、平成29年度の正答率が64.6%と「読むこと」の問題の中で最も低く、無解答率は3.0%と「読むこと」の他の問題と比較すると高い。そこで今年度も、読んでつかった情報を基に日本語で解答する形で出題した。

⑦は、まとまりのある英文の手紙を読んで、概要や要点を理解し、内容に合うように、質問に正確に答えることができるかどうかを把握するために出題した。今年度は自分の住んでいる所のよさを伝える手紙の内容理解であったため、自分の住んでいる地域のよさを発信する機会を充実させたい。(1)については、疑問詞 when で始まる疑問文への応答の正答率は、平成29年度の同様の問題で47.3%と課題がみられたため、引き続き出題した。

指導のポイント

1 即興性を高める言語活動

新学習指導要領の「話すこと【やり取り】」の中に「関心のあることについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」とある。今回の⑥のような2人以上による「休日の計画」などの身近なテーマに関しては、授業の最初のウォーミングアップ等の帯活動で、ペアや4人グループ等で繰り返し扱っていききたい。

また、さいたま市の「グローバル・スタディ」のカリキュラムの中にある「リスニング教材」を使用し、対話文の聞き取り練習を行う。また、そのスクリプトを活用し、対話文の読解を行うこともできるため、対話のモデルとして生徒に示すことも大切である。

2 スキャニングの技術

新学習指導要領の「読むこと」の中に「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの中から必要な情報を読み取ることができるようにする。」とある。そのため、⑥(1)や⑦(1)のように、まとまった文章の中から特定の情報を探し出す練習を日々行っていききたい。

日々の授業では教科書本文に関する質問を先に提示し、それを本文の中から探す練習を行っていくことが有効である。個人で取り組むだけでなく、ペアや4人グループで協力して探す条件を課し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進していききたい。

中学校第1学年 「書くこと」

【特徴的な問題】

8 次の絵を見て、下のTom(トム)とJudy(ジュディ)の対話文中の()に入る適切な英文を、英語4語で書きなさい。

トム : ()

ジュディ : It's twelve o'clock.

トム : Let's have lunch together.

ジュディ : Sure.

10 あなたは、さいたま市の姉妹都市アメリカのリッチモンド市に滞在しています。そこで、現地の中学生にさいたま市出身のサッカー選手、川島永嗣さん(Eiji Kawashima)について紹介することになりました。下の表の全ての内容について英文4文で書きなさい。なお、どの内容から書いてもかまいません。

出題の趣旨

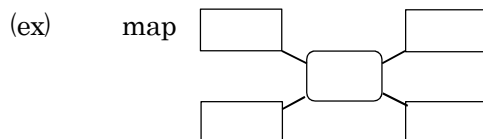
8は、対話文を読み取り、絵の場面から状況を理解し、時間を尋ねる疑問文を書く問題である。新学習指導要領では言語活動について、『実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど』の活動を基本とする。」とある。そこで今回は、場面の絵や対話文の文脈から判断して考えを伝える表現力が身に付いているかどうかをみる問題を出题している。また、平成29年度の正答率が56.7%と課題があり、さらに無解答率は13.0%と全問題の中でも1番高い値であった。そのため、今年度は生徒がより具体的な場面、状況を想定しやすい絵を考え、再度出題をした。

10は、条件に従い、さいたま市出身のサッカー選手について英文4文で書く問題である。さいたま市出身の人を紹介することはもちろんのこと、自身の興味・関心のあることについて簡単な英文を用い、発信することができる力が身に付いているかを問う内容になっている。また、この問題は「グローバル・スタディ」中学校教師用指導資料第3版にある単元指導計画案Program6の内容を生かした問題にもなっている。

指導のポイント

生徒の興味・関心のある内容を設定し、英作文に取り組み、スピーチを行う。

1 有名人や好きなキャラクターなどを調べさせ、対象者についてマッピングをする。



2 作成したマップをもとに、文法やスペルに注意をし、英文を作成する。

(ex) This is ...

He is a ...

3 スピーチを行う。(絵や写真等を使用するとよい) またその際、聞き手は聞いた内容についてメモを取り、話し手に対しスピーチに関する質問をさせる。

自分自身が興味・関心のあることを「調べ」、「作成」し「伝える」ことで成就感を味わわせる。そして表現力や情報発信力を醸成する。さらには、話し手だけの一方的なものではなく、聞き手から質問をさせることにより、「書くこと」の活動を通して「聞くこと」、「話すこと」の能力を育成することができる。

中学校第1学年 「言語材料」(文法事項など)

【特徴的な問題】

12 次の日本語に合うように()内の語(句)を並べ替えたものとして正しいものを、それぞれのア～エの中から1つ選び、その記号を書きなさい。
ただし、文頭にくる語でも小文字になっている場合があります。

- (1) あなたは、CDを何枚持っていますか。
(① CDs / ② do / ③ how / ④ you / ⑤ have / ⑥ many)?
- (2) あなたは、どの季節が好きですか。
(① like / ② do / ③ season / ④ you / ⑤ what)?
- (3) これは、私の家族の写真です。
(① family / ② a picture / ③ is / ④ my / ⑤ this / ⑥ of).

出題の趣旨

12は、日本語に合うように、与えられた語や語句を適切に並び替える問題である。

(1)の「How many + 名詞～」の問題は、今年度で4年連続の出題となり、その正答率は平成27年度に66.0%、平成28年度に68.6%、平成29年度に72.3%と年々上昇している。今年度も定着の状況を把握するために出題した。また同様に第2学年でも平成27～29年度に出題されており、その正答率は第1学年同様に年々上昇傾向にある。なお、「How many + 名詞～」の表現は、小学校「グローバル・スタディ」で学習している。

(2)の「What + 名詞～」の問題は、平成28年度に第1学年で出題された時は、52.5%であった。この表現は小学校で扱われているが、「How many + 名詞～」とは違い、中学校の教科書では基本文としては取り上げられていない。しかし重要な表現であるため、定着の状況を把握するために出題した。なお、What do you like season? という、seasonを目的語とした語順が一番多い誤答として予想される。

(3)日本語には無い後置修飾の知識が必要となる。「of」が使えることで表現の幅を広げることができるため、定着の状況を把握するために出題した。

指導のポイント

(1)、(2)に関しては、まずこれらの言語材料を指導する時間を、授業の冒頭、いわゆる帯活動のような形で確保することが効果的である。その際、新学習指導要領にある「言語活動と効果的に関連付けて指導すること」を意識したい。簡単な文法指導後に「話す」、「聞く」を主体としたペアでの言語活動から、「書く」と「読む」活動へと、授業ごとに扱う技能を変え、段階的に指導をしていきたい。また、質問表現に対する適切な応答の表現も同時に指導することにも留意したい。

(例)「What + 名詞～」を使った「話す」、「聞く」を主体とした言語活動の例

1 What () do you like? の()内の英単語を変えた質問表現を複数用意し、ペアでパターンプラクティスを行う。

2 すべての質問が終わったら、回答していた側が質問をする。

回答者はbecauseを使ってその理由も付け加えて答えられるようになると、表現の幅がより広がる。

A: What fruit do you like?

B: I like watermelons because they are delicious. How about you?

ii 中学校第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 2 3 聞くこと	①は、短い英語の問い掛けに対し、適切な応答を選択する問題である。質問の内容や意図を正しく理解し、適切な応答を聞き取ることができるかどうかを把握するために出題した。特に、(1)は、過去進行形の文に対する応答を選択する問題だが、平成28、29年度市調査【中2】において、課題がみられたため(平成28年度50.0%、平成29年度57.3%)、継続して同一問題を出題した。 ②は、短い対話とその内容に関する質問を聞き、適切な答えを選択する問題である。対話や質問の内容を正しく理解した上で、正確な情報を基に、正解を導き出すことができるかどうかを把握するために出題した。(1)は会話にある母の誕生日から、モモコの誕生日を推測する問題である。 ③は、英語のスピーチを聞いて、その内容に関する質問に答える問題である。質問を提示することで聞き取りのポイントを焦点化した。その上でメモをとるなどしてその答えとなる正確な情報を聞き取ることができるかどうかを把握するために出題した。特に、(3)の日本語で記述する問題については、過去3年間の市調査において、正答率と無解答率で課題がみられたため(平成27年度正答率29.6%、無解答率23.7%、平成28年度正答率29.4%、無解答率30.5%、平成29年度正答率32.4%、無解答率14.8%)、継続して出題した。
4 5 6 読むこと	④は、対話文を読んで、その大切な部分を理解できるかを問う問題である。文と文のつながり及び時間の流れを正しくとらえることができるかどうかを把握するために出題した。 ⑤は、対話文を読んで、その内容に関する質問に答える問題である。対話文の概要や要点を理解しているかどうか、また、主語を尋ねる疑問文の答え方を理解しているかどうかを把握するために出題した。 特に、(2)の疑問詞 who が主語になっている疑問文の応答については、平成28、29年度市調査【中2】において出題され、正答率が下がっている。(56.8%、45.8%)今年度も正答率の推移を把握するために出題した。 ⑥は、職業体験という、生徒が身近に感じることができる話題についての英文を読んで、その内容に関する質問に答える問題である。英文の概要や要点を理解し、書き手の言いたいこと及び日本語の要約文に関する情報をとらえることができるかどうかを把握するために出題した。
7 8 9 書くこと	⑦は、対話文の内容から「夏休みの予定の話をしている」という場面を正しくとらえ、そのやりとりとしてふさわしい英文を書くことができるかどうかを把握するために出題した。 ⑧は、絵の内容に関する英問英答の問題である。絵から状況を正しく理解し、質問に対する場面に適した応答を英語で書くことができるかどうかを把握するために出題した。平成29年度市調査【中2】において正答率が51.4%と課題がみられたため、継続して類似問題を出題した。 ⑨は、グローバル・スタディ教師用指導資料第3版にあるように、さいたま市の伝統文化について深く知り、英語を使って実際に伝える活動によって生徒に書くことの力が備わってきているのかを検証するために出題した。
10 11 言語材料(文法事項等)	⑩は、対話の場面や流れに合った適切な英文を選択する問題である。(2)は買い物、(3)は電話、(4)は道案内と、具体的な場面や状況を読み取るとともに、文法や慣用表現に関する知識を身に付けているかどうかを把握するために出題した。なお、(1)は、曜日に関する問答として平成27～29年度市調査【中2】に引き続き、類似問題を出題した。 ⑪は、対話の流れを読み取り、状況にあった英文について、与えられた語や語句を適切に並べ替える問題である。特に(1)は疑問詞「疑問詞+名詞」の形をとる英文については、例年課題がみられる。平成29年度は中学校1、2年生に類似問題を出題したが、今年度も経年比較をするために、中学校1年生においても類似問題を出題した。(3)は平成29年度に正答率が35.2%と課題がみられたため、今年度も出題し、経年比較を行う。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		基礎問題	活用問題	心・意欲・態度	コミュニケーションへの関	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・	選択式・短記式・記述式	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1(1)	過去進行形の疑問文What were you doing～?の内容を理解し、適切な応答を選択することができる。	○					○		選	64.6	0.2	H28市【中2】 H29市【中2】	50.0 57.3		
1(2)	不定詞の名詞的用法の疑問文の内容を理解し、適切な応答を選択することができる。	○					○		選	88.8	0.2	H29市【中2】	65.8		
1(3)	疑問詞whoseを用いた疑問文の内容を理解し、適切な応答を選択することができる。	○					○		選	68.4	0.2				
2(1)	対話を聞いて、日付に関するやりとりとその内容に対する質問を理解し、適する答えを選択することができる。	○					○		選	33.1	0.4				
2(2)	対話を聞いて、天気に関するやりとりとその内容に対する質問を理解し、適する答えを選択することができる。	○					○		選	87.1	0.4				
3(1)	英語のスピーチを聞いて、内容の要点を理解し、When～?に対する適切な応答を選択することができる。	○					○		選	62.3	0.6				
3(2)	英語のスピーチを聞いて、内容の要点を理解し、What～?に対する適切な応答を選択することができる。	○					○		選	40.1	0.7				
3(3)	英語のスピーチを聞いて、内容の要点を理解し、ホワイト先生から彩へのアドバイスを適切な日本語で説明することができる。		○				○		記	18.0	10.6	H29市【中2】	32.4		
4(1)	対話を読んで、要点を理解し、理由を述べる際に使うbecauseに続く適切な英文を選択することができる。	○					○		選	69.1	0.8	H27市【中2】	84.0		
4(2)	対話を読んで、概要や要点を理解し、ケンの行動を時間の流れに沿った順番に並べ替えることができる。		○				○		選	28.4	0.6	H28市【中2】 H29市【中2】	11.9 57.2		
5(1)	対話を読んで、概要や要点を理解し、本文の内容に合った適切な絵を選択することができる。	○					○		選	73.2	0.5	H29市【中2】	57.6		
5(2)	対話を読んで、要点を理解し、疑問詞whoが主語になっている疑問文に対する適切な応答を選択することができる。	○					○		選	42.2	0.9	H28市【中2】 H29市【中2】	56.8 45.8		
6(1)	まとまりのある英文を読んで、概要や要点を理解し、On the first dayに続く適切な英文を選ぶことができる。	○					○		選	43.9	2.5	H29市【中2】	63.8		
6(2)①	まとまりのある英文を読んで、概要や要点を理解し、日本語の要約文を完成することができる。		○				○		記	25.7	35.4	H28市【中2】 H29市【中2】	78.0 57.5		
6(2)②	まとまりのある英文を読んで、概要や要点を理解し、日本語の要約文を完成することができる。		○				○		記	29.6	34.1	H28市【中2】 H29市【中2】	28.1 52.4		
7	対話を読んで、話の前後の流れから、適切な英文を英語6語で書くことができる。		○			○			記	27.6	24.6	H29市【中2】	35.2		
8	絵の内容について尋ねている過去進行形の疑問文に対する適当な応答を英語4語以上で書くことができる。		○			○			記	37.9	13.9	H29市【中2】	51.4		
9	さいたま市の名所について、条件に従って、適切な英語4文で書くことができる。		○			○			記	15.2	13.0	H29市【中2】	37.1		
10(1)	対話の流れを読み取り、曜日を尋ねる際に使う適切な英文を選択することができる。	○						○	選	70.4	1.4	H29市【中2】	66.7	中1	75.8
10(2)	対話の流れを読み取り、買い物の際に使う適切な英文を選択することができる。	○						○	選	87.7	1.4				
10(3)	対話の流れを読み取り、電話の際に使う適切な英文を選択することができる。	○						○	選	69.8	1.7				
10(4)	対話の流れを読み取り、道案内の際に使う適切な英文を選択することができる。	○						○	選	73.1	1.6	H29市【中2】	54.9		
11(1)	対話の流れを読み取り、「What＋名詞＋do you like?」の語順になるように、与えられた語を適切に並べ替えることができる。	○						○	選	42.8	1.6	H28市【中1】	52.5	中1	55.3
11(2)	対話の流れを読み取り、「give＋人＋物」の語順になるように、与えられた語句を適切に並べ替えることができる。	○						○	選	62.9	2.1	H28市【中2】	66.9		
11(3)	対話の流れを読み取り、不定詞の形容詞的用法を使った英文になるように、与えられた語を適切に並べ替えることができる。	○						○	選	58.5	1.9	H29市【中2】	35.2		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題を出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第2学年 「聞くこと」

【特徴的な問題】

③ これから彩がALTのホワイト先生についてスピーチします。それを聞いて、次の(1)(2)の質問に対する答えを英文の次に放送するア～エの中からそれぞれ1つ選び、その記号を書きなさい。また、(3)は日本語の質問に日本語で答えなさい。スピーチを放送した後に、(1)と(2)の答えをそれぞれ2回放送します。

(1) When did Ms. White give Aya's class homework?

(2) What did Aya have to do?

(3) 彩はホワイト先生からどのようなアドバイスをされましたか。下線部に適する日本語を書きなさい。

アドバイス1：毎日_____すること。

アドバイス2：完璧な英語を書く必要はないということ。

出題の趣旨

③は、まとまりのある英文(スピーチ)を聞いて、その内容に関する質問に答える問題である。新学習指導要領では「はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。」とあり、生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもので、具体的には学校行事や自分の好きなことなどが考えられる。

(1)(2)については、あらかじめ提示されている質問を読んだうえで、ポイントを絞って正確な情報を聞き取ることができるか、疑問詞や時制に応じた正しい答え方を選択できるかを把握するために出題した。また、(3)は、話し手がALTとの対話の中で得たアドバイスについて解答する問題である。平成29年度調査【中2】において、正答率が32.4%と低く、無解答率も14.8%と課題がみられたため、引き続き日本語でまとめる問題を出題した。

指導のポイント

1 アクティブ・リスニングの定着と機会の充実

「聞く力」を伸ばすためには、「聞き方の指導」とそれを練習し、定着を図る「機会の充実」が大切である。

(1)「聞き方の指導」

「グローバル・スタディ」において重要なスキルの一つに「アクティブ・リスニング」が挙げられている。相づちを打ったり、コメントや質問をしたりして、相手の話に積極的に反応しつつ、相手の意向を正確に聞き取るスキルである。どんなささいな言語活動であっても、「アクティブ・リスニング」を意識させ、活動後の教員による称賛を行うことで、定着を図りたい。このスキルを身に付けさせることで「聞く力」の向上につなげたい。

(2)「機会の充実」

(1)に挙げた「聞き方の指導」を様々な場面設定、学習内容で実施することでスキルの定着を図ることができる。教科書のみならず、Authentic Materials(生教材)を活用したり、ALTとのインタビュー活動を実施したり、様々な機会を与えることで、「アクティブ・リスニング」をより主体的に、より意欲的に行わせ、定着を目指したい。

2 発音指導の充実

英語を正確に聞き取るためには、「正確な発音」「語と語の連結による音の変化」「基本的なイントネーション」「基本的な区切り」等を身に付けることが重要である。音読活動はもちろん、パフォーマンステストの実施やスピーチの発表を通して、英語の発音指導を行い、特有の発音や言い回しに慣れさせることで「聞く力」を向上させたい。オーバーラッピングやシャドーイング、スラッシュリーディング等、多様な音読活動を実施し、生徒に評価をフィードバックすることで更なる効果が期待できる。

【特徴的な問題】

- ⑥ 次の文章は、職場体験を行った Misaki (美咲)がそのときの彼女の体験についてまとめたものです。この英文を読んで、あとの(1)～(2)の問いに答えなさい。
- (1) 本文の内容に合うように、次の英文に続く文を下のア～エの中から1つ選び、その記号を答えなさい。
- On the first day,
- ア it was not a happy time for Misaki because she was very busy.
 イ a nursery school teacher said to Misaki, “Only good children wanted to play with you.”
 ウ Misaki stayed at the nursery school until every child went home.
 エ Misaki talked to some children in the nursery school when she remembered the words of the teacher.
- (2) 次の日本語が本文の内容に合うように、(①)、(②)の中に入る適切な日本語を書きなさい。

出題の趣旨

④、⑤は対話文を読んで、文と文のつながりからをとらえ、その概要や要点を理解しているかどうかを問う問題である。また、⑥は、生徒にとって身近な職場体験活動についての英文を読んで、概要や要点を理解し質問に答える問題である。

この問題は、新学習指導要領の「読むこと」に示されている「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。」に関連させている。⑥(1)では、Misakiが職場体験初日にしたことを理解できているか、(2)では、日本語の要約文に関する情報を正確に読み取ることができるかどうかを把握するために出題した。特に(2)②は、平成29年度市調査【中2】においては、平成28年度市調査【中2】の正答率が28.1%から52.4%と大幅に改善されたが、文章のあらすじに沿って大切な部分を正確に答えることができるかどうかを把握することを目的として継続して出題した。

指導のポイント

スラッシュリーディングやパラグラフリーディングの活用

英語の文章は、論理的な文章などに見られるように、トピックセンテンスからパラグラフが始まり、そのトピックについて論理が展開していくといった、日本語の文章とは異なった特徴がある。そのため、パラグラフの構成を理解させ、概要や要点をつかませる指導が大切になってくる。

(1) スラッシュリーディング

スラッシュリーディングとは、英文を文法的、意味的なまとまり（フレーズ）ごとに区切って読む読み方のことである。スラッシュリーディングによって、意味のまとまりの切れ目を正確に理解できれば、正しく意味をつかむことができるようになる。また、意味のまとまりの単位で内容を理解することで、素早く情報を処理することができるようになる。ただし、大事なことは、「生徒自身でフレーズごとに区切ることができなければならない」ということである。そのためにも授業の中で繰り返し指導を重ねていくことが大切である。

(2) パラグラフリーディング

パラグラフリーディングとは、英文のパラグラフ構成の特徴をつかみ、パラグラフ全体の概要や要点をつかむ読み方である。トピックセンテンスがどこにあり、他の文とどのような関係になっているかを考えながら読むように指導することが大切である。

これらのような方法で読み取った内容やそれに対する自分の考えをアウトプットするなどの統合的な活動につなげていく取組も大切である。

中学校第2学年 「書くこと」

【特徴的な問題】

- ⑨ 次の条件に従い、さいたま市の名所を、まとめた内容の英文で紹介しなさい。ただし、下にある4つの名所の中から1つ選び、その場所を4文で紹介することとします。1文は4語以上とし、動詞は4文とも違うものを使用しなさい。ただし、be動詞は何度使用してもよいこととします。

- ＜条件＞① 1文目は If you come to Saitama city, you should～.で始め、「もしあなたがさいたま市に来るならば、～へ行った方がいい。」という英文を書きなさい。
 ② 2文目は、その名所を説明する英文を書きなさい。
 ③ 3文目については、You で書き始め、そこでできることや楽しめることを書きなさい。
 ④ 4文目については、I think ～. で始め、自分の考えや気持ちを入れて書きなさい。

1. Iwatsuki Joshi Park

2. Saitama Stadium 2002

3. Saitama Super Arena

4. The Railway Museum

出題の趣旨

⑨は、条件に従ってさいたま市の名所について英語4文で書く問題である。新学習指導要領の「書くこと」の目標にある「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。」に関連している。また、「グローバル・スタディ」第Ⅲ期における内容のまとめ「書くこと」の言語活動にも「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書く」とある。本市独自のカリキュラムでは、さいたま市の伝統や文化について深く知り、英語を使って実際に伝える活動を行っているため、今回の調査で、他者にさいたま市のことを紹介する表現力が身に付いているかを把握するために出題した。平成29年度に類似の問題を出題し、正答率が37.1%、無解答率が11.4%だった。「グローバル・スタディ」の取組を通じて生徒の書く力がどれだけ身に付いたかを把握することもねらいとしている。

指導のポイント

「聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり、発表）、書くこと」の技能の中で、「書くこと」に課題を感じている生徒が多く見受けられる。そのため授業では、段階的に書く力を伸ばしていけるよう、継続的にかつ計画的に指導を行っていく必要がある。

1 段階的な指導

授業では、「話すこと」や「書くこと」でも単文で答えられるものから、少しずつ2文、3文とまとまりのある内容を伝えられるように、スモールステップを踏みながら指導をしていきたい。

授業の中の簡単なコミュニケーション活動と書く活動を関連付けながら、ただ「聞く」「話す」でとどまらず、質問に対する自分の答えや友達の答えを書く作業を通してまとめる指導を意識して取り組む。加えて、プレゼンテーションなどの発表活動においても、自分の伝えたい内容や他の生徒の発表に対しての感想を書くことを通して、段階的に書く力を高めていくことが可能である。このような活動を通して、「書く」力の育成に努めたい。

2 自分自身に関係の深いことを伝える取組

「書くこと」「話すこと」などの活動にはいつも、「何について」というトピックが重要になってくる。生徒が自分自身のことから、自分にまつわる人や場所、出来事など自分に関係の深いトピックについて「書くこと」「話すこと」ができるように指導すると効果的である。さらに、I think ...because...を使って自分の考えを述べる活動に取り組ませたい。そしてこのような活動をディスカッション、ディベートに生かすねらいをもって指導に努めたい。

今回は、さいたま市のことについての出題であったが、日本文化や歴史、日本食など生まれ育った場所に関することも伝えられるように指導を行っていきたい。

中学校第2学年 「言語材料」(文法事項等)

【特徴的な問題】

10 次のAさんとBさんの対話文を読み、対話が自然な流れとなるように、()に当てはまる最も適切な文を、それぞれア～エの中から1つ選び、その記号を書きなさい。

- (3) A: Hello, this is Grandma.
B: Hi, Grandma. How are you?
A: I'm fine. Is your father in?
B: ()
Dad! It's for you.

ア Hold on, please.
イ No, he's not.
ウ No, I'm not.
エ Sorry, I'm busy now.

- (4) A: Could you tell me the way to the station?
B: ()

ア That's right.
イ That's a good idea.
ウ Sure.
エ Oh, yes, thank you.

出題の趣旨

10は、対話の場面や流れに合った適切な英文を選択する問題である。これは、新学習指導要領第2章2内容にある「意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるような様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めることが必要である」に関連させた問題である。

(3)は教科書の本文にある対話からの出題で、電話をしているという実際の言語の使用場面が明確であり、(4)は道案内をする場面である。平成29年度は買い物の場面に関する出題であったが、正答率54.9%と課題がみられた。場面や状況を読み取るとともに、日常生活でよく用いられる慣用表現に関する知識が身に付いているかどうかを把握するために出題した。

指導のポイント

1 教科書の基本本文の効果的な活用

教科書の基本本文には、そのセクションで学習すべき要素が示されている。そこで、新たな言語材料の導入とともに教科書の基本本文を効果的に活用したい。

例えば、4技能5領域の統合的な活動を行うことができる。基本本文にある対話には、それぞれ場面設定がなされている。その対話を場面に応じた表現を使い生徒自身でアレンジしたり、さらに対話を続けたりするなどして「書くこと」に取り組む。その後、ペア等でその対話を暗記した上で「発表すること」につなげる。さらに、その発表を「聞くこと」に取り組む。適切にメモをとり、発表者に質問するなどといった活動も効果的であると考ええる。その際に大切なのは、指導と評価の一体化を図ることである。単元の最後に行う「パフォーマンステスト」の内容を意識し、活動に反映させたい。

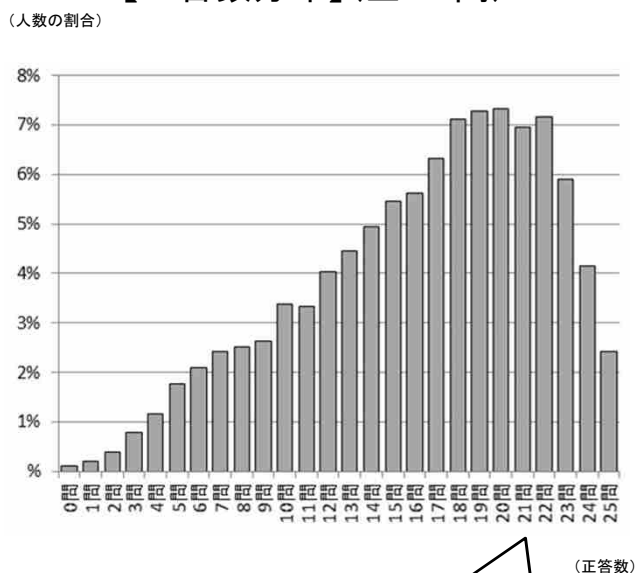
2 インプットする活動からアウトプットする活動への発展

教科書の基本本文や本文にある重要表現だけではなく、コミュニケーションを図るのに必要な表現は数多く存在する。生徒に単に覚えさせる活動のみを行うのではなく、その表現を使ってアウトプットする活動へ発展させる必要がある。始めは教師が場面設定を行い、それに応じた表現を使いながら対話を「書くこと」からスタートし、段階に応じて生徒自身で場面設定から「発表すること」まで行うことに発展させたい。また、教科書のPOWER UPやMy Projectにおいてインプットした表現を使い、言語活動に繰り返し取り組ませることで知識を定着させ、深い学びにつなげていきたい。

Ⅲ 調査結果概況【市全体】

中学校第1学年【グローバル・スタディ(英語)】

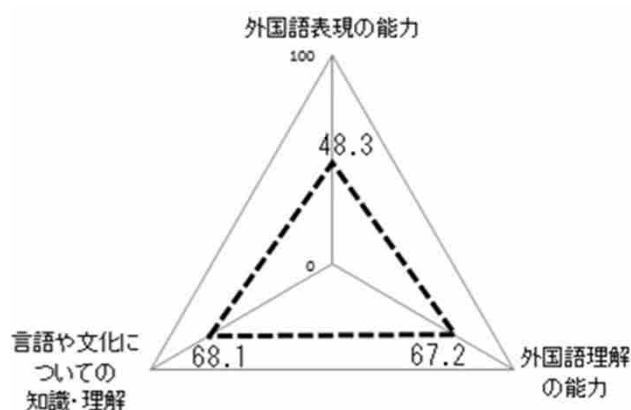
【正答数分布】(全25問)



正答数ごとの人数の割合を示したものです。
例えば、25問中21問正答した生徒の割合が7.0%
程度であることを表しています。

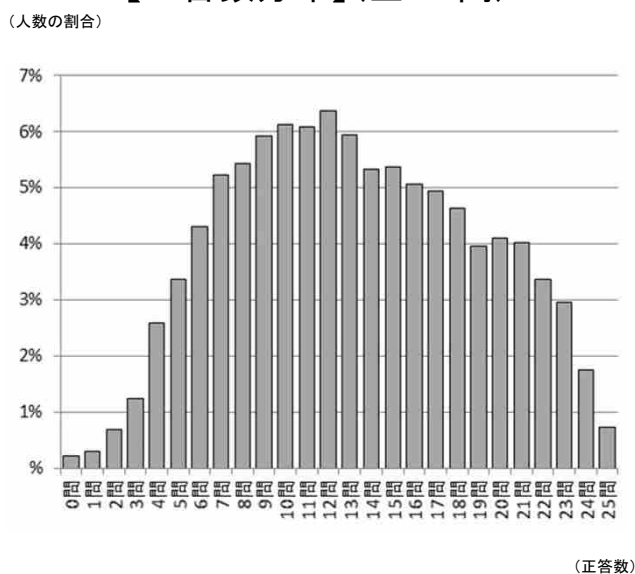
【観点別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率(%)



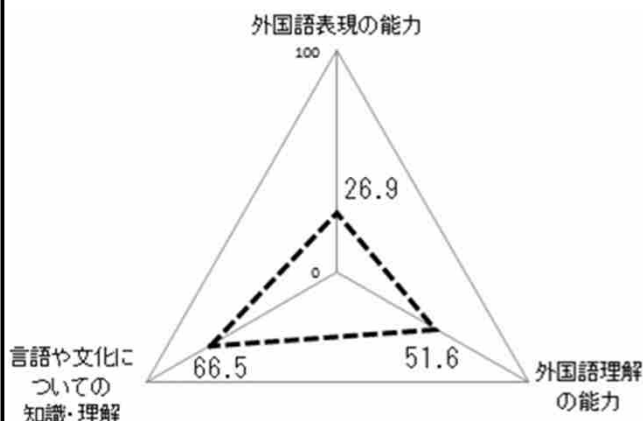
中学校第2学年【グローバル・スタディ(英語)】

【正答数分布】(全25問)



【領域別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率(%)



Ⅳ 成果・課題と解決の糸口

(1) 中学校第1学年

※ 線は、解決の糸口

<成果>

- 【聞くこと】「聞くこと」に関する問題の平均正答率は70%を超えており、英文での問い掛けに対する応答について理解ができている。また、小学校「グローバル・スタディ」で学習した内容を扱った問題は、正答率が74.3%と高い結果である。今後も小学校で学んだことを生かす取組を行い、9年間を見通した一貫性のある学習指導を展開したい。
- 【読むこと】「対話文を読んで、要点を理解し、トムの日曜日の過ごし方について日本語で書く問題」は、正答率が73.5%であり、平成29年度の類似問題64.6%と比較すると上昇しており、改善がみられる。
- 【書くこと】「絵や対話文から場面を読み取り、時間について尋ねる文を、適切な英語4語で書く問題」は、正答率が58.6%であり、平成29年度の56.7%から上昇した。授業で活用する頻度の高い英文を書く力が身に付いたと考えられる。

<課題と解決の糸口>

- ▲【聞くこと】2～4のように聞き取った情報を使って答える問題について課題がみられる。情報を正しく聞き取り、活用する力が課題である。相手の言っていることをメモし、それを活用して会話する等の取組が必要である。
- ▲【書くこと】「さいたま市出身の有名人の紹介を、条件に従って、適切な英語4文で書く問題」において課題がみられる。この問題はグローバル・スタディ指導資料第3版にある活動を生かしたものである。自校の生徒の状況に応じて単元計画を見直し、単元目標に迫る取組を展開し、ねばり強く丁寧な指導を展開する必要がある。
- ▲【言語材料】1 2 (2)「What + 名詞」の正答率が55.3%、(3)「～a picture of my family」の正答率が54.7%と他の問題と比べて低い。継続的に、様々な場面で取り上げながら指導していく必要がある。

(2) 中学校第2学年

<成果>

- 【聞くこと】1の「英文の内容を理解し、適切な応答を選択する問題」では、平成29年度より平均正答率が約10%上昇し、改善がみられる。聞き取った内容から言語の使用場面を理解する力が身に付いたと考えられる。
- 【読むこと】4 (1)「対話文の概要を理解し、理由を述べる際に使うbecauseに続く適切な英文を選択する問題」は正答率が69.1%である。小学校「グローバル・スタディ」から学習しているbecauseが定着してきている表れである。
- 【言語材料】「言語材料」に関する問題の平均正答率は66.5%であり、平成29年度と比較して約3%上昇している。言語の使用場面を意識し、導入した文法事項がどのように使われるのかを、授業の中での活動を通して生徒が深く理解することができるようになったと考えられる。

<課題と解決の糸口>

- ▲【聞くこと】3 (3)「スピーチの内容を日本語で説明する問題」の正答率が18.0%と依然として低く、課題がみられる。無解答率も10.6%と高い。聞き取った内容を整理し、適切に解答する力を身に付ける必要がある。
- ▲【読むこと】6「まとまった英文を読んで答える問題」の平均正答率が33.1%で、課題がみられる。英文の概要や要点をとらえ、情報を整理しながら、丁寧に読み進める活動に取り組む必要がある。
- ▲【書くこと】「書くこと」の問題において全体的に課題がみられる。パフォーマンステストに向けて生徒に英文を書かせる際に、「学びの足あと」を残すよう指導する。また、生徒が書いた英文を、ALTとともに丁寧に添削する。さらに繰り返し添削指導を行う等によって、書く力の向上を図りたい。